

薄型テレビ壁掛け VESA 金具 『LCD-113』

使用・取り付け説明書



※取り付けを行う前に、テレビが今回お買い上げの金具に適合するのかを今一度確認してください。取り付け工事を行った後にテレビが取り付け不可だと発覚しても、弊社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

お客様へ

このたびは本商品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用前に、この「使用・取り付け説明書」をよくお読みのうえ、正しく設置・お使いください。

お読みになったあとは、失くさず大切に保管してください。

- ・本書をしっかりとお読みになったうえで、安全性を十分に考慮して確実な取り付けを行ってください。
- ・取り付け工事は、必ず2人以上で行ってください。
- ・壁の種類・テレビのネジ穴によっては使用しない部品があります。使用するネジ類はすべて確実に取り付けるようにしてください。
- ・決して無理をせずに、取り付けが困難になったら必ず工事業者に依頼してください。

注意

説明書を無視した組み立てや誤った組み立て、取り付け不良、取り付け強度不足、本来の目的以外の利用、および天災などによる事故や破損については、弊社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

安全上のご注意 ご使用の前に必ずお読みください。

※本商品を安全に使用し、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防ぐために、次のように表示し区分しています。

⚠ 警告 この表示を無視して誤った取扱いをすると、死亡や重傷を負う恐れがある内容を示します。

⚠ 注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が怪我をしたり家屋や家財などに損害を受ける恐れがある内容を示します。

⚠ 十分に注意する内容を示します。

! 必ず指示に従って行う内容を示します。

⊘ 絶対にしてはいけない内容を示します。

重要！

※取り付けを行う前に、テレビが今回お買い上げの金具に適合するのかを今一度確認してください。取り付け工事を行った後にテレビが取り付け不可だと発覚しても、弊社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

⚠ 警告

テレビに異常が発生したときは、テレビの電源プラグを抜き人が近寄れないように処置をしてください。

そのうえで、販売店に修理をご依頼ください。

- ・液晶テレビがガタつく、振動が激しい
- ・取り付けたネジや部品にゆるみやはずれがある など

部品を改造したり、正規以外の使い方をしないでください。テレビが落下して、怪我をしたりテレビが破損する原因になります。

ボルトやネジ類は、所定の場所に確実に締め付けてください。ゆるいとテレビが落下して、怪我をしたりテレビが破損する原因になります。

テレビ側金具がしっかりと壁側金具に取り付いていることを確認してください。

思わぬ揺れなどでテレビが落下し、怪我をしたりテレビが破損する原因になります。

付属の部品でコンクリートやレンガの壁には取り付けないでください。

付属の部品は補強壁や柱・間柱などの木造用です。無理に取り付けると落下や怪我の原因になります。

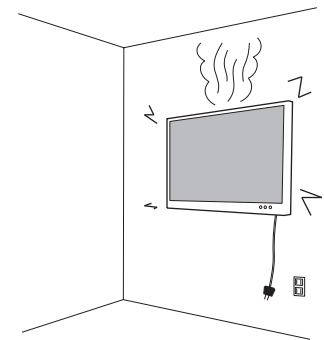
ぶらさがる、コードを引っ張るなど衝撃を加えないでください。

衝撃や大きな力がかかる場所には取り付けないでください。テレビが落下して、怪我をしたりテレビや壁が破損する原因になります。

取り付ける壁面によって壁面の耐荷重が異なります。

取り付ける場所を確認し、取り付けが困難な場合は中止してください。

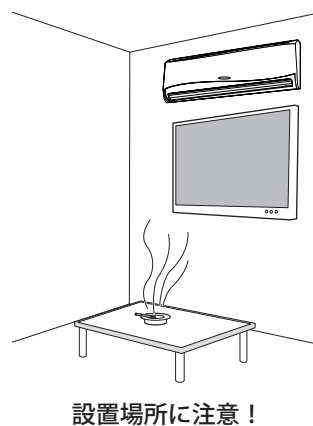
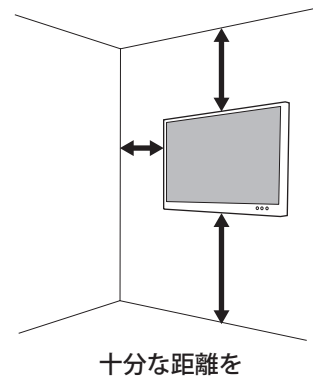
テレビ・金具が壁ごと落下し、怪我をしたりテレビ・壁が破損する原因になります。



異常発生時はコンセントを抜いて近づかない

⚠ 注意

- ❗ 通風孔をふさがないでください。また、周囲に十分な距離をとり、通風を妨げないようにしてください。テレビ内部が高温になり、火災の原因になることがあります。
- ⊘ 天井や傾いた壁面には取り付けないでください。テレビ内部に熱がこもって火災の原因となることがあります。また、落下する危険性があり怪我をしたりテレビが破損する原因になることがあります。
- ⊘ エアコンの吹き出し口、吸い込み口付近や、ほこりや油煙、タバコの煙の多い場所に取り付けないでください。火災やテレビの故障の原因になることがあります。
- ⊘ 温度や湿度の高くなる場所や、水のかかる場所には取り付けないでください。火災や感電、落下の原因となることがあります。
- ⊘ 設置後の移動は極力行わないでください。一度開けた穴を再び使用することはしないでください。ゆるくなっているため、テレビが落下する原因になります。
- ⊘ 取り付けの際は、テレビや周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから作業を行ってください。感電の原因になったり、テレビや周辺機器が破損する原因になります。
- ⚠ 取り付けの際は指を挟まないようにご注意ください。また、素手での取り付けはしないようにしてください。怪我の原因になります。
- ⊘ 開閉するドアや家具の扉にぶつかる場所には取り付けないでください。頭や顔、手足をぶつける場所には取り付けないでください。怪我の原因になります。
- ❗ 電気工事は、専門業者にご依頼ください。設置場所に通っている配線、配管は確実に避けてください。電源コードなどの芯線の露出、断線などは火災や感電の原因になります。
- ❗ 工事作業や設置作業は必ず2人以上で行ってください。テレビが落下して、怪我をしたりテレビが破損する原因になります。



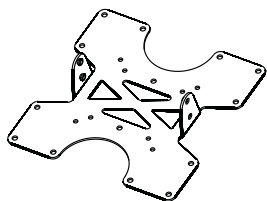
素手で作業禁止！

付属の部品一覧

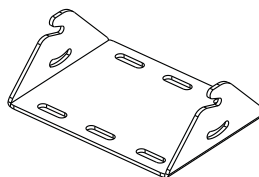
※お取り付け前に必ず必要な部品がそろっているかを確認してください。万が一部品が足りない場合は、取り付けをせずにお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

※金具・部品の仕様や形状は実際とは多少異なる場合がございます。

金具



a. モニターブラケット…1枚



b. 壁側プレート…1個

部品



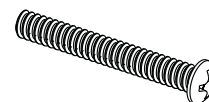
c. M4x12 ボルト…4本



d. M6x12 ボルト…4本



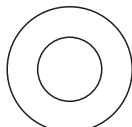
e. M4x30 ボルト…4本



f. M6x35 ボルト…4本



g. M4 ワッシャー…8個



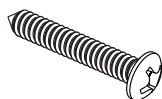
h. M6 ワッシャー…6個



i. M6 ロックワッシャー…2個



j. M4/M6 スペーサー…4個



k. M5x45 タッピングビス…6個



l. M5x30 タッピングビス…6個



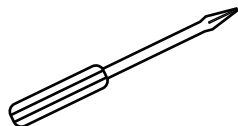
m. タッピングビス用
ワッシャー…4個



n. M6x12 ボルト…4本
(金具固定用ネジです)

※部品番号 c～h までのボルト・ワッシャーはテレビのネジ穴の大きさなどに応じて適切なものをお選びください。
部品番号 j の M4/M6 スペーサーはテレビの裏面に段差がある場合のみ使用します。
部品番号 d と n の M6x12 ボルトは同じ部品ですが、使用する場所が違うために分けて記載してあります。

必要な道具・工具



プラスドライバー
(長いものがあると便利)



下穴用ドリル



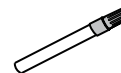
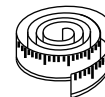
間柱センサー



軍手

その他あると便利な道具

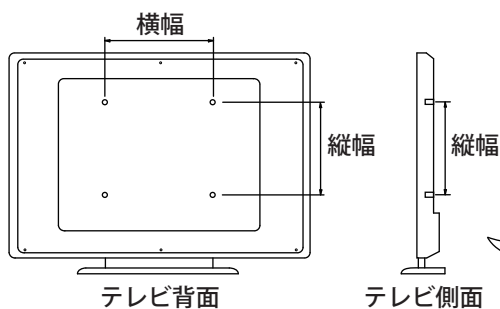
- 厚手のタオル、やわらかい布
- メジャー
- ペン・鉛筆



取り付け工事を始める前に

取り付け工事を始める前に、準備の見落としや部品不足などがないかを、もう一度確認しましょう。

- 壁掛けを予定している壁はお決まりですか？穴が開いても大丈夫ですか？
→金具を壁に固定する際にネジを使うため、壁に5mm程度の穴が開きます。
アパート・マンションなど借家の場合は、必ず管理人や大家さんに許可を得てください。
- 壁は金具とテレビを取り付けても問題が無い強度ですか？
→取り付ける壁面によって、壁面部分の耐荷重が異なります。
- 安全上のご注意の項目は読み終わりましたか？
→取り付け工事に関して重要な項目です。必ず目を通してください。
- 金具や部品はすべて揃っていましたか？
→万が一部品が足りない場合は、取り付け工事を中止し、販売店にご連絡ください。
- 取り付けに必要な道具・工具は揃っていますか？
→道具・工具は付属しておりません。お客様でお揃えください。
- テレビは壁掛けに対応するタイプのものですか？
→金具には対応できるテレビのサイズや重量があります。
また、テレビ側にも壁掛けに対応している必要があります。必ず確認をしてください。



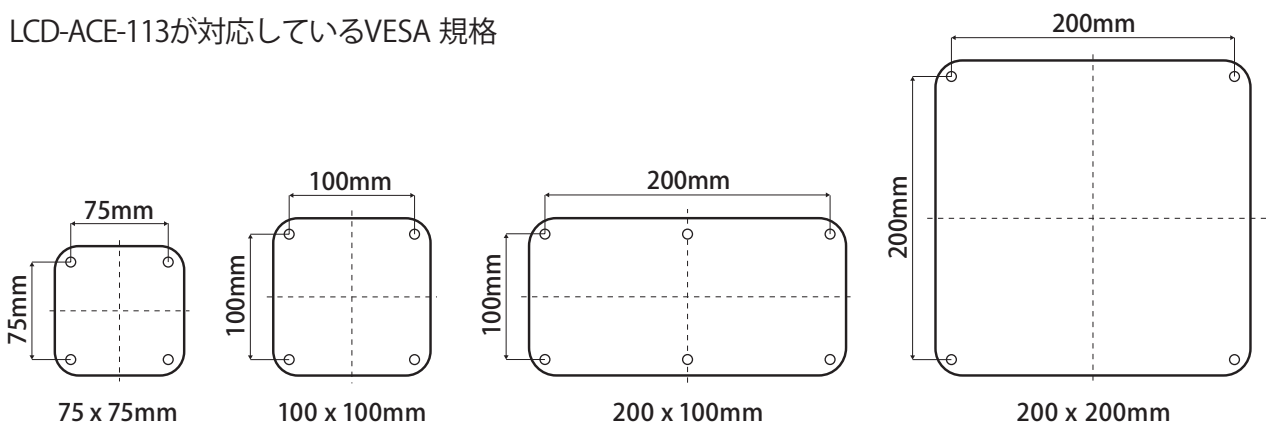
※側面から見てテレビに段差がある場合は、スペーサーで逃げられる程度の段差のみ取り付け可能となっております。

段差があるテレビには
スペーサーが必要

VESA規格とは

この商品は、VESA規格に対応している液晶テレビや液晶モニターを取り付けることができます。「VESA規格」とは、液晶モニターの背面にあるネジ穴の数や間隔などの国際規格のことを言います。「VESA規格」の取付けネジ穴の間隔は、75mm×75mm、100mm×100mm、200mm×100mm、200mm×200mmなどの種類があります。

LCD-ACE-113が対応しているVESA規格



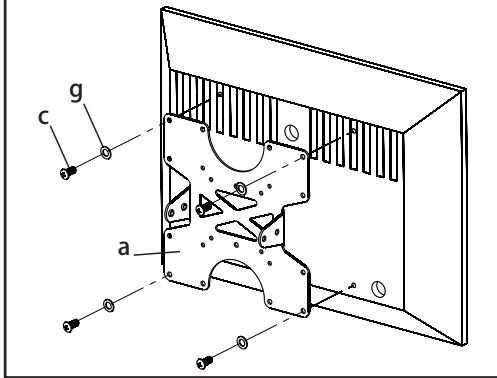
Step1. モニターブラケットの取り付け

テレビの背面が平面で段差がないもの

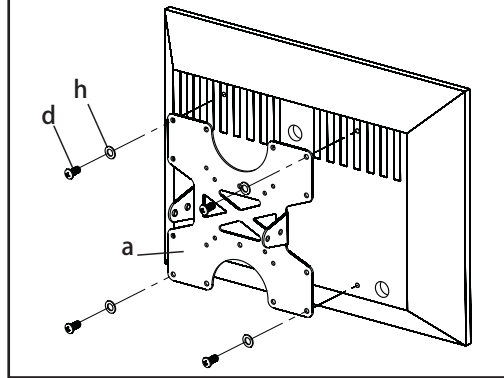
下の図を参考にして、テレビの背面に開いている両端のボルト穴にモニターブラケット (a) を、ワッシャー (g,h)、ボルト (c,d) を使って取り付けます。この時のワッシャー、ボルトは、テレビのボルト穴の大きさに合ったものを取り付けてください。

取り付ける際には、モニターブラケットの向きにご注意ください。飛び出ている部分が左右になります。

M4 ボルトを使用する場合の部品



M6 ボルトを使用する場合の部品



・ボルトの大きさがすべて合わない場合や、取り付け時に違和感がある場合は取り付け作業を中止してください。無理に大きさの違うボルトを使用するとテレビにヒビが入り、破損や故障してしまう可能性があります。

テレビの背面に段差がある場合

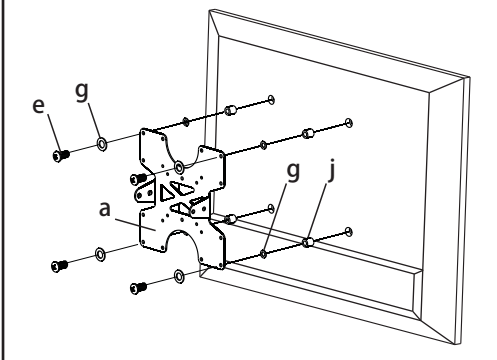
テレビに段差がある場合は、段差に干渉されないよう（モニターブラケットが当たらないよう）スペーサーを使用して取り付ける必要があります。

下の図を参考にして、テレビの背面に開いている両端のボルト穴にモニターブラケット (a) を、スペーサー (j)、ワッシャー (g,h)、ボルト (c,d) を使って取り付けます。この時のスペーサー、ワッシャー、ボルトは、テレビのボルト穴の大きさに合ったものを取り付けてください。

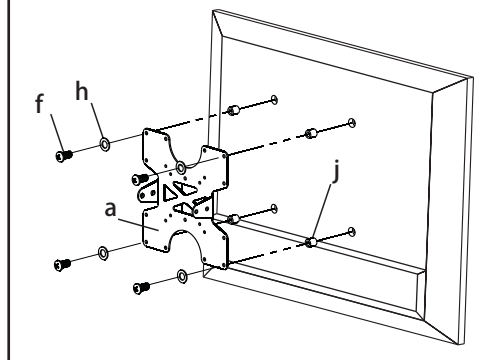
M4 ボルトとスペーサーを使用する場合はモニターブラケットとスペーサーの間にもワッシャー (g) を取り付けてください。

取り付ける際にはモニターブラケットの向きにご注意ください。飛び出ている部分が左右になります。

M4 ボルトとスペーサーを使用する場合の部品



M6 ボルトとスペーサーを使用する場合の部品



・スペーサーを使用しても段差が干渉してしまう場合は取り付け作業を中止してください。
・ボルトの大きさがすべて合わない場合や、取り付け時に違和感がある場合は取り付け作業を中止してください。無理に大きさの違うボルトを使用するとテレビにヒビが入り、破損や故障してしまう可能性があります。

Step2. 壁側プレートの取り付け

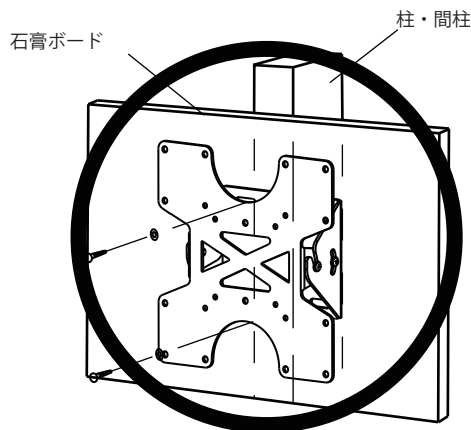
取り付けをする前に

警告

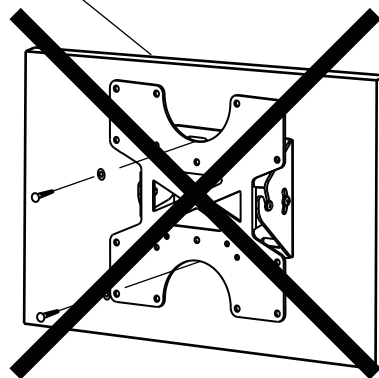
取り付ける壁面によって耐荷重が異なります。金具を設置する壁面は液晶テレビと金具などの総荷重に長期間十分耐え、地震や想定される外力に十分耐える場所に取り付けてください。

■取り付け場所の確認

取り付けは必ず強度補強が入っている壁もしくは間柱に行ってください。強度が不足する場合は、補強を行ってください。石膏ボードのみの部分への取り付けは、荷重に耐えられず石膏ボードごと落下する可能性がありますので、石膏ボードのみの部分への取り付けは絶対にしないでください。



石膏ボード (裏に柱・間柱が無い箇所)



必ず柱・間柱もしくは補強の入った壁にネジを打ち込んで取り付けてください。

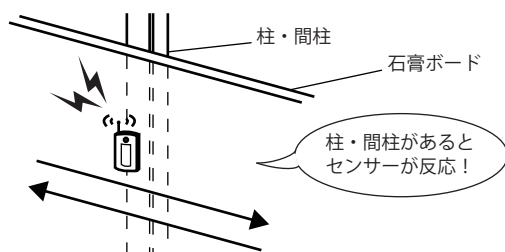
石膏ボードのみの部分に取り付けを行うと壁ごと落下して怪我や破損の原因になります。

■間柱に取り付ける際の、間柱の見つけ方

簡単な方法として間柱センサーや検知針を使って間柱を見つけます。間柱センサーは電気信号で見つけるタイプ、検知針は細い針を刺すタイプが多く、ホームセンターなどに売っています。設置する場所に目星をつけ間柱センサーや検知針で調べていきます。

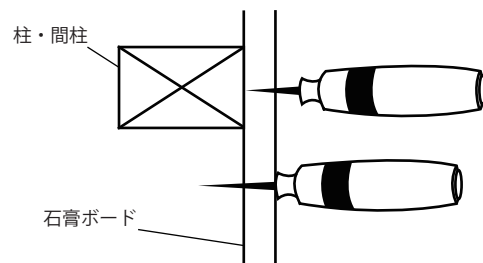
間柱を見つけたら目印をつけ、間柱の中央付近を確認しましょう。最初に見つけた場所が間柱の端だった場合、ネジが効かなかったり間柱が割れてしまう可能性がありますので、間柱の中央付近をしっかりと確認して確実にネジを打てる場所を見つけてください。

間柱センサーを使用する場合



左右両方から壁をなぞるように数回調べます。センサーの鳴り始めが間柱の端になりますので、その中間が間柱の中央になります。

間柱検知針を使用する場合 (上から見た図)



刺すタイプは、間柱がないと手ごたえがなく針が奥まで入ります。針が止まると柱や間柱がある場所です。(仕様はメーカーによって異なります)

■壁がコンクリートやレンガの場合

コンクリートへの設置は大変危険な作業となりますので、コンクリートやレンガの壁への取り付け工事はお近くの専門業者にご依頼ください。

また、本商品にはコンクリート・レンガ用のボルトは付属していません。

本商品に付属しているネジやボルトでは絶対に木造以外の壁には使用しないでください。

穴を開ける位置を確認し、穴を開けて壁側プレートを取り付ける

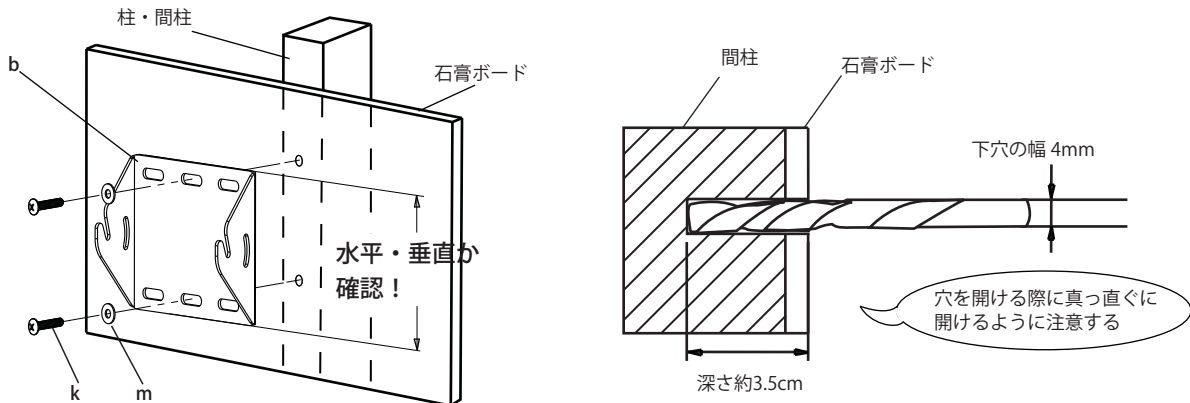
一般的な住宅で使われている、石膏ボードのみの壁には取り付けができません。必ず補強の入っている壁もしくは間柱に取り付けをするようにしてください。間柱に取り付ける場合は、前ページの「間柱の見つけ方」を参考に、取り付けを予定している壁の裏側にある間柱の場所を、間柱センサーなどで探して目印を付けてください。壁側プレート (b) を使ってどこに取り付けるかを決め、取り付けに使用する上下の穴 2～4 点 (上下各 1～2 点) に印を付けておきます。

その際に、印がしっかりと水平・垂直についているかどうかを確認してください。

■間柱に取り付ける場合の下穴と取り付けネジの寸法

印の箇所 2 点に、ドリルを使用して幅 4mm、深さ 3.5cm 程度の下穴を開けます。ズレないように十分に気を付けて作業を行ってください。電動ドリルを用意してあるとスムーズに作業が進みます。

全ての穴を開けたら、壁側プレート (b) を取り付けます。M5x45 タッピングビス (k) とワッシャー (m) を使用して、下の図を参考に壁側プレートを壁の裏側の間柱にしっかりと取り付けてください。



※打ち込む間柱や補強壁によっては、付属のボルトよりも細く小さなボルトを使用した方が、作業しやすい場合があります。その場合は販売店や専門業者などにご相談ください。

取り付けが完了したら、再度しっかりと取り付けられているかどうかを確認してください。

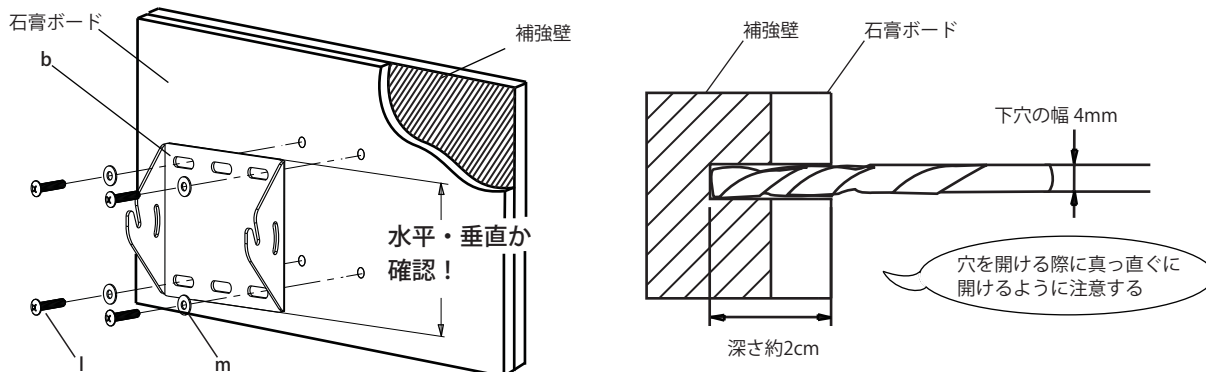


- ・取り付けには怪我をしないよう十分に気を付け、2人以上で取り付けを行きましょう
- ・穴を開ける際や壁側プレート (b) を取り付けの際に違和感を感じた場合 (しっかりとネジで固定された感触がないなど) ただちに取り付け工事を中止し、販売店や専門業者へご連絡ください。

■補強壁に取り付ける場合の下穴と取り付けネジの寸法

印の箇所 4 点に、ドリルを使用して幅 4mm、深さ 2cm 程度の下穴を開けます。ズレないように十分に気を付けて作業を行ってください。電動ドリルを用意してあるとスムーズに作業が進みます。

全ての穴を開けたら、壁側プレート (b) を取り付けます。M5x30 タッピングビス (l) とワッシャー (m) を使用して、下の図を参考に壁側プレートを壁にしっかりと取り付けてください。



※打ち込む間柱や補強壁によっては、付属のボルトよりも細く小さなボルトを使用した方が、作業しやすい場合があります。その場合は販売店や専門業者などにご相談ください。

取り付けが完了したら、再度しっかりと取り付けられているかどうかを確認してください。



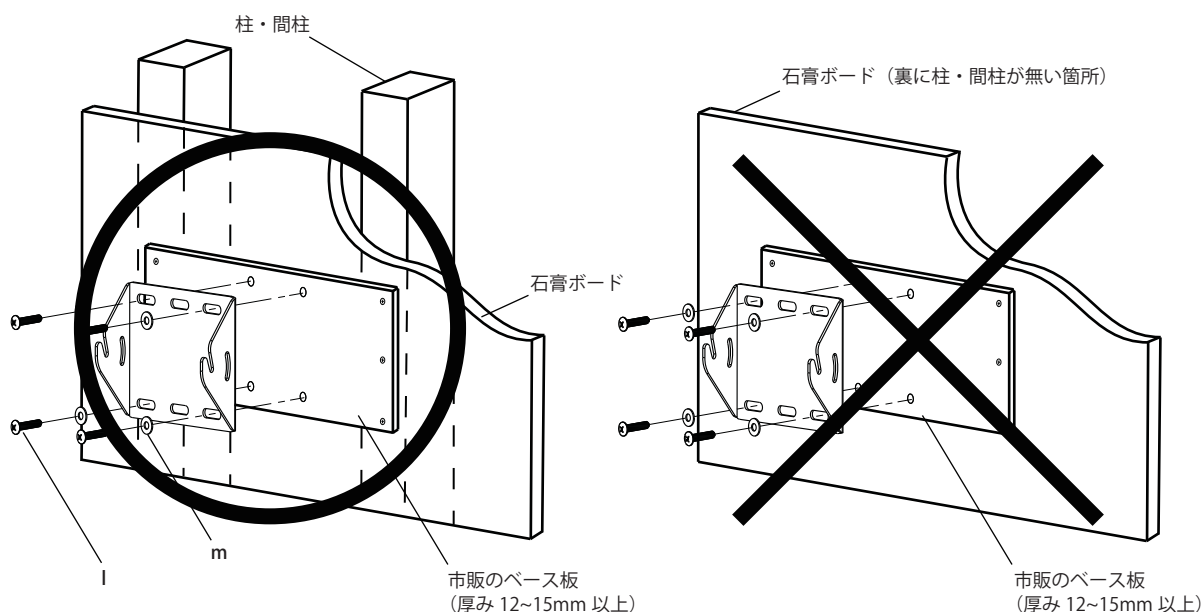
- ・取り付けには怪我をしないよう十分に気を付け、2人以上で取り付けを行きましょう
- ・穴を開ける際や壁側プレート (b) を取り付けの際に違和感を感じた場合 (しっかりとネジで固定された感触がないなど) ただちに取り付け工事を中止し、販売店や専門業者へご連絡ください。

■間柱のない場所へ取り付ける場合

間柱のない場所へ取り付けをする場合は、市販のベース板（厚み 12~15mm 以上の板）を壁の裏側にある柱や間柱のある部分にネジ 4~6 点で取り付け、取り付けたベース板に壁側プレート（b）を M5x30 タッピングビス（l）とワッシャー（m）で取り付ける方法があります。

ベース板を取り付けるネジは付属しておりませんので、ホームセンターなどで販売している市販のものを使用してください。

※ベース板がテレビの幅より大きくなることもございますのでご注意ください。



❗ ベース板は必ず柱・間柱にネジを打ち込んで取り付けてください。

⊘ 石膏ボードのみの部分にベース板の取り付けを行っても壁ごと落下して怪我や破損の原因になりますので絶対に取り付けないでください。

取り付けが完了したら、再度しっかりと取り付けがあるかどうかを確認してください。



ご注意

- ・取り付けには怪我をしないよう十分に気を付け、2人以上で取り付けを行いましょう
- ・補強板を取り付ける際に違和感を感じた場合（しっかりと間柱にネジで固定された感触がないなど）は、ただちに取り付け工事を中止し、販売店や専門業者へご連絡ください。
- ・穴を開ける際や壁側プレート（b）を取り付ける際に違和感を感じた場合（しっかりとネジで固定された感触がないなど）ただちに取り付け工事を中止し、販売店や専門業者へご連絡ください。

Step3. テレビをプレートへ取り付け

モニターブラケットを壁側プレートに引っ掛けて固定する

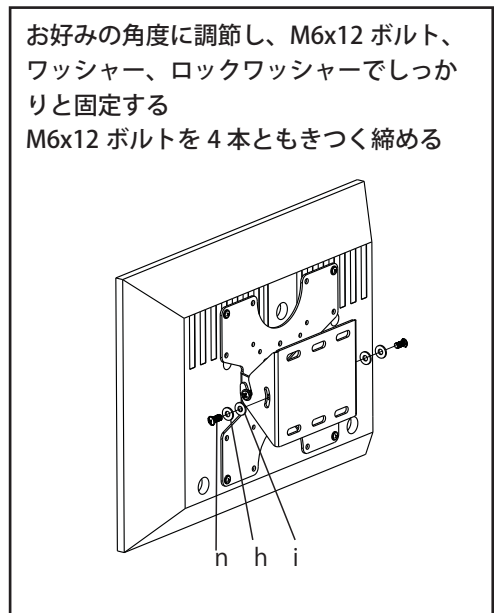
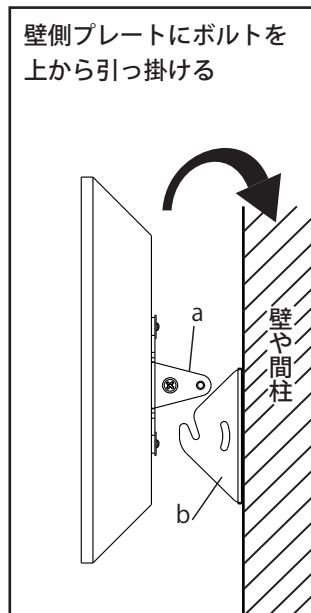
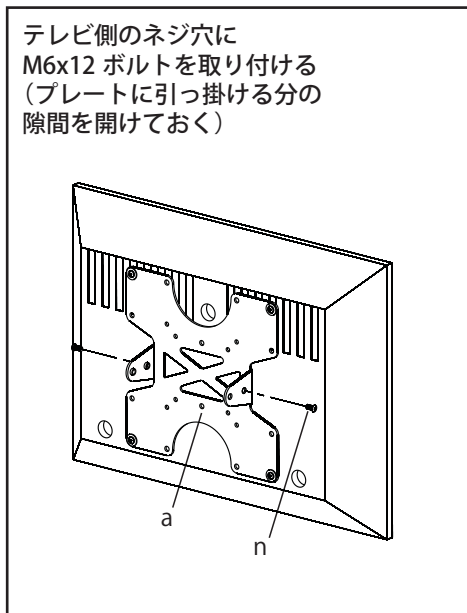


- ・この項目での作業は、テレビの大きさや重量、取り付け場所によっては大変困難な作業となる場合がございますので、無理に1人で作業を行わずに2人以上での取り付け作業を行ってください。
- ・無理な作業による作業者の負傷や、テレビや金具などの破損・損傷などについては弊社では一切の責任を負えませんので、安全に作業を行うようにしてください。

テレビの壁掛けが完了すると、テレビの背面と壁の隙間が5.5 cmほどになります。テレビ背面に電源コードなどを取り付けて使用する場合は、金具を取り付ける前にテレビに電源コード類を取り付けておいた方が最後にコード類を取り付けるよりも作業が楽になる場合があります。

下の図を参考に、テレビ側のモニターブラケット (a) に M6x12 ボルト (n) を取り付けます。この部分を壁側プレート (b) に引っ掛けますので、きつく締めずに隙間を開けておいてください。

モニターブラケットを壁側プレートに引っ掛け、お好みの角度に調節し、M6x12 ボルト (n)、M6 ワッシャー (h)、M6 ロックワッシャー (i) でしっかりと固定します。また、隙間を開けておいた M6x12 ボルトもしっかりと固定してください。



※角度調節を行う際は、モニターブラケットが引っ掛かりから落ちないように十分に気を付けて作業を行ってください。テレビの大きさによってはボルトの締め付けが難しくなりますので、長いドライバーをご用意いただくと取り付けやすくなる場合がございます。

最後に～取り付け確認作業～

各取り付け部分および、ボルトやネジの緩み、ガタがないかを確認してください。緩みが確認できた際は増し締めをしっかりと行ってください。少しでもガタや、違和感があった際には取り付けを中止してください。この確認作業は定期的に (半年に1回程度) 実施し、問題なく使用できていることを確認してください。

ありがとうございました。素敵な壁掛け生活を楽しんでください！